

活動テーマ

地元の魅力再発見のための情報発信と  
多世代交流型イベントの実施

ときがわ町全域 大正大学

### 1 活動目的

「第2次ときがわ町総合振興計画」によると、現在、ときがわ町が抱えている課題は、イベント等の参加者の固定化と地域住民が地域の子供に対しての関心が希薄化していることが挙げられている。また、渡邊町長のインタビューにおいて、町民が地域の魅力を再発見する「内発的発展」に重要性が指摘されている。

それらを踏まえ、私たちはときがわ町の方々との交流を深めることで、町外の視点からときがわ町の魅力を発見、言語化し、それらをときがわ町の方々に発信すること、また、木材という伝統的で魅力的な産業資源を活かして、多世代が交流して楽しめるようなイベントを開催することで、上記の課題の解消のきっかけ作りをすることが本活動の目的である。

### 2 活動地域の現状

ときがわ町は、平成18年に旧都幾川村と旧玉川村の合併で誕生した埼玉県北部に位置し、令和6年3月現在の人口は10,383人の町である。町は山に囲まれており、水と緑が非常に豊かな自然環境に恵まれている地域である。ゆえに、古くから木工建具の里として栄えており、現在もときがわ町産の木材は町内外で多岐にわたって活用されている。また、近年では、キャンプやカフェなどの新規事業が町内外の若い世代から起こっており、町の自然を生かした事業が創発する地域にも見える。

### 3 活動内容

地域の伝統的な産業である木材や新たに誕生している新規の事業や活動について町内の方々に発信し、ときがわ町の魅力を再発見できるような活動ができないかと考え、具体的には2つの取り組みをおこなった。すなわち、①町内の事業者様に取材し「ときがわ新聞」を発行する、②木材を活用した多世代交流型のイベントを開催した。加えて、③地域内の山林保全活動にも積極的に参加してときがわ町の様々な方々との交流を図った。以下にそれらの活動の一部を紹介する。

#### ①「ときがわ新聞」の取材および発行

ときがわ町の事業や活動取材し、その魅力を町内に発信するために「ときがわ新聞」を作成し発行した（全4回）。町内20か所の公的施設にはA2サイズのポスターを掲示し、町内の事業所など各所でA4サイズのチラシを配布した。継続していくうちに、町内の方々から、「新聞みたよ」と声をかけていただいたときや、歩いている町内の方々が「ときがわ新聞」を持っているのを見たりしたときに、少しずつ成果が出ていることを実感できた。



## ② 木材を活用した多世代交流イベントの実施

ときがわ町西平地区で「ときがわ町の昔といまとミライ」というイベントを開催した。参加者のターゲットは、ときがわ町在住の子ども、大人(親)、高齢者の3世代である。イベント内容は、ときがわ町の白地図を使用し、「昔のときがわ町にあったもの、今のときがわ町にあるもの」、「未来のときがわ町にあってほしいもの」の2つのパートに分け、参加者同士で話し合いながらオリジナルの地図を作成するというイベントである。

当日は、小学生8名(萩ヶ丘小学校、明覚小学校2年生～6年生)、彼ら彼女らの親御様、どんぐり山を守る会(西平)の方々やそのご友人たちが参加してくださり、みなでコミュニケーションをとりながら一緒にときがわ町のミライ地図を作成した。



## ③ 地域内の山林保全活動への参加 慈光茶保全活動(全2回)

町田屋旅館の町田美喜雄さんを中心に活動されている「慈光茶保全活動」に参加した。この日は慈光茶の木を増やすため、苗木を1000本植樹した。

幻のお茶とされる「慈光茶」の復活を目指すこの活動は、ときがわ町の地域資源の再生という意味でもとても意義のある活動だと考え、少しでも活動を支援できればと思い参加した。



## どんぐり山保全活動(全4回)

20年以上も継続的に活動されている「どんぐり山を守る会」の定例活動に定期的に参加した。多くの子どもたちが訪れるどんぐり山の保全活動を手伝った。具体的には、山道や階段の整備や、クリスマスローズの花壇整備、溜まった落ち葉や茂った草葉の除去など、その季節に応じた様々な活動をおこなった。今後もしもどんぐり山を訪れる人々に楽しんでもらえるように、この活動には継続的に関わってきたい。



## 4 成果

### ① 「ときがわ新聞」の取材および発行

「ときがわ新聞」による広報活動を通じて、さらに新たに知り合った人たちと交流する機会が生まれ、私たちの活動を応援してくれる住民の方々も増えてきた。新聞で取り上げたお店では新聞を見かけて来店してくださり方もだんだん増えてきたとの声もあり、新聞の宣伝効果を実感した。また「ときがわ新聞」をSNSで紹介してくださった方もおり、そ

の投稿を見て訪ねてきてくれる人もいたようだ。

「ときがわ新聞」を定期的に作成して発行するという取り組みは、当初の予想以上に大変な活動だったが、「ときがわ新聞」を通して、ときがわ町で活動している人や素敵なお店、イベントや取り組みをより多くの町内の方々に知ってもらうことができたので、ときがわ町の魅力再発見という目標は部分的にはあるが、達成できたのではないかと考える。

## ② 木材を活用した多世代交流イベントの実施

イベントの成果は、町内の多世代交流の機会を提供できたこと、町内の子どもたちに地域資源である木材に触れてもらう機会を創出できたことである。地域資源である木材に触れるというだけではなく、スムーズに多世代が交流できる工夫が必要だという点から、ときがわ町の昔、今、未来の地図を作成するイベントを開催することとなった。というのは、地図の作成という共同作業によって、「私が小さいことにはここにこういう建物があつたんだよ」という昔の話や、「ここにこれがあつたらいいのに」という未来の話で多世代のコミュニケーションが自然に生まれるのではないかと考えたからである。

さらに、ときがわ町の地図上に、いつも通っている学校や、自宅、インフラなどを木材のブロックで作成し、ジオラマのような立体地図を作ることで、地域資源に触れる機会と多世代による交流の機会を同時に生むことを意図した。

イベントの当日は、6歳の子どもから子育て世代、高齢世代といった多世代の20名を超える参加者があり、イベントは大いに盛り上がった。子どもたちがときがわ町の様々な種々の木材ブロックを組み合わせて、家や空想の建物を建て、ときがわ町の昔と現在と未来をみなで語り合う様子が見受けられ、みなさんに楽しんでいただけたようで、このような企画でイベントを開催してよかったと感じた。また、定期的なイベントとは異なり、新たなイベントであったため、偶然参加した者同士で交流できるきっかけともなったので、イベント参加者の固定化や子どもへの関心の希薄化というときがわ町の抱えているとされる課題の解決につながられたと考える。

## 5 課題

「どんぐり山を守る会」の保全活動に参加させていただく中で、会員の方々から動植物に関することやハンマーやのこぎり等の道具の使い方など様々なことを実際に体験しながら教えていただいた。様々な経験をさせていただき、ともに活動していく中で、会員の方々の高齢化していることに気づき、次の世代に引き継いでいくことが今後の課題なのだと考えた。非常に魅力的な地域資源や活動があるので、それらの存在を町内で周知して、様々な方が参加できるような仕組みを作るようにしたい。

## 6 次年度以降の計画

「ふるさと支援隊」としての活動は、今年度で終了となる予定である。しかし、この1年で得た新たな繋がりを大切に、今後も継続的にときがわ町や町内で活動されている方々と関わっていきたいと考えている。とくに、すでに「どんぐり山を守る会」の井上さんとは話し合いの場を設けており、毎月第1日曜日に定例で開催されているどんぐり山の整備活動に参加について歓迎していただいた。

さらに、若者の意見やアイデアも聞きたいというお話もあったため、「ふるさと支援隊」のメンバーが出したツリーハウスづくりという案を採用していただき、それらを実行に移

していく予定である。これからも、本企画で培った経験や基となった趣旨を念頭に置きながら、ときがわ町に住む方々だけでなく、町外から訪れた人々がときがわ町の魅力を体験できる場を目指し、継続的な活動をおこなっていきたい。